

# **現場から見た武蔵野市地域ケアの現状と課題**

## **訪問介護について**

### **訪問介護連絡会議で見た訪問介護事業者の抱える問題**

- ①現役ヘルパーの高齢化とそれに伴う離職や新規に入職する人材の確保が困難であること**
- ②採用したヘルパーが定着しないこと**
- ③訪問介護への理解度が依然として低いこと**
- ④ヘルパー向けの研修を参集して実施するのが困難であること**

**2023年1月17日 日介センター 浅野**

## **訪問介護事業者連絡会議 令和4年度の活動方針**

- ①武蔵野市の各種事業に積極的に参加します。例えば、11月に開催される「ケアリンピック武蔵野2022」に訪問介護の普及啓発の観点から参加し、演題発表や介護の現状を伝える杏林大学との連携事業にも協力します。新規や潜在的な有資格者の人材確保に結びつけたいと考えています。**
- ②令和4年度も引き続きコロナ禍で苦しい訪問介護事業者の事業継続のために必要な助成制度の拡充など意見の取りまとめや提言を行っていきます。**

**③ 訪問介護事業者としてのサービス向上のための必要な研修を、武蔵野市や地域包括ケア人材育成センターの助言を受け、オンライン等を活用して実施して参ります。訪問介護事業者の職員が講師を行うことも検討しています。**

**④ ヘルパーの定着状況のアンケートを行い、結果をもとに人材確保、定着定着に関する成功例などを業者間で共有します。**

## **訪問介護事業者連絡会議の総会(令和4年度6月)以降の状況**

- ① 新規のヘルパーの採用がない状況が続いている。現役ヘルパーが高齢化に伴い仕事を引き受けなくなっている**
- ② 訪問介護事業者連絡会議での研修会や在宅医療・介護連携推進事業の各部会で研修会がコロナ禍当初より活発化している。  
武蔵野市や地域包括ケア人材育成センターからの研修の情報提供も多くない各事業所もヘルパー向けに情報提供している**

**③ 総合事業の訪問型への一般事業所の取り組みはほぼない状況で  
特殊なケースで有資格者としてヘルパー対応している。  
要介護1、2への総合事業の拡大については各事業所も  
不安を抱えている**

**④ 訪問介護への理解度を高める活動はしたいが、それが人材確保  
へどのように結びつけられるかがわからない状況**

**④ 各事業の事業者の連絡会議ごとにつながりが薄かったが、オンラインでの話し合いが1月の月末に予定されるなど横のつながりを強化する動きがでてきている。**

**⑤ 訪問介護の総会でおこなったズームのブレイクルームの同職種での話し合いが好評だった。人材確保の面からも意見や愚痴を言い合い、地域で支えあえる交流の場の設定が必要**